

---

# 特別活動

---

## 1 研究テーマ

### (1) 研究テーマ

自己実現に向けた活動を通じた指導事例～5校におけるソーシャルスキルエデュケーション(SSE)の検討～

### (2) 研究のねらい

本研究は、令和5年度より、ソーシャルスキルエデュケーション(SSE)を取り入れた特別活動の授業研究を行っている。令和7年度は、様々な特色や実態に合わせた指導の計画や支援の手立てを記載することで、より多くの高等学校で活用可能な事例を検討した。また、補助簿を使用した評価の例も併せて示しており、各学校の指導と評価の一体化を目指す上での参考になることを期待している。

## 2 指導事例

令和7年度の研究では、令和6年度に県立新羽高等学校で実施した公開研究授業の内容を基に、4名の推進委員が令和8年度所属校における研究授業の実施に向けて指導案を検討した。

### (1) 事例1 神奈川県立柏陽高等学校(全日制) 小澤 卓明 教諭

#### ア 目指す生徒の姿

「グローバルリーダーとして、次代を担う人材」の育成を目指す。具体的には、将来の国際社会でリーダーとして活躍する人材の育成を目指し、高い学力・コミュニケーション能力・リーダーシップを身に付けさせるとともに、豊かな人間性・社会性を育む。

#### イ 指導と評価の計画案

SSEについて考え、学校(日常)生活での課題を見いだし学校生活に生かす。

#### (ア) 生徒(学校)の様子

生徒(学校)の様子：本校は「学力向上進学重点校」として、将来の国際社会でリーダーとして活躍する人材の育成を目指し、高い学力・コミュニケーション能力・リーダーシップを身に付けさせるとともに、豊かな人間性・社会性を育むよう、「授業の工夫」「グローバル教育」「系統的進路指導」「生徒主体の行事運営」等を行っている。一方、学校生活を送る中で、学力は高いがコミュニケーションに「苦手意識」を持っている生徒や、さまざまな部分で協働したり、学習と行事や部活動を両立したりすることに「疲れ」を感じている生徒も多く、ホームルーム教室ごとに異なる課題もある。また、現状として1年生は行事や部活動、授業におけるペアワーク・グループワーク等他者との関わり方に苦慮した結果、欠席や遅刻が増えてしまう状況が見られる。SSEについて、ワークを通して理解を深め、自己に足りない部分(課題)に気付き克服し、今後の学校生活をよりよくするために他者と考えを共有する必要がある。

#### (イ) 内容のまとめ

ホームルーム活動(1)ホームルームや学校における生活づくりへの参画

#### (ウ) 議題

よりよい学校生活を送るために、SSEのワークを通してコミュニケーションにおける自己の課題を見いだし他者と共有する。

#### (エ) ホームルーム活動(1)で育成を目指す資質・能力

- より良い学校生活に向け、多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。[知識及び技能]
- より良い学校生活に向け、集団や自己の生活、人間関係の課題を見いだし、解決するために話し合いを通して合意形成を図り、意思決定することができるようにする。[思考力、判断力、表現力等]
- 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、主体的に集団や社会に参画し、生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての在り方・生き方についての自覚を深め、より良い学校生活を送ろうとする態度を養う。[学びに向かう力、人間性等]

## (オ) 内容のまとめりごとの評価規準

事例1～4において共通とする。

## 【ホームルーム活動(1)ホームルームや学校における生活づくりへの参画】

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
より良い学校生活に向け、ホームルームや学校、社会生活を向上・充実させるために諸問題を話し合っ解決することや、他者を尊重し協働して取り組むことの大切さを理解している。話し合い活動や合意形成を得るための手順や活動の方法を身に付けている。	より良い学校生活に向け、ホームルームや学校、社会生活を向上・充実させるための課題を多角的に見いだしている。課題を解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践している。	当事者として、より良い学校生活に向け多様な他者と積極的に協働しながら日常生活の向上・充実を図ろうとしている。他者への尊重と思いやりを深めて互いのよさを生かす人間関係を作ろうとしている。

## (カ) 一連の活動と評価

時間	議題及び題材 ねらい・学習活動	目指す生徒の姿		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ホーム ルーム 活動 1	<p>【テーマ：SSEを通して学校(日常)生活での課題を見だし学校生活に生かす①】</p> <p>SSEについて理解し、学校(日常)生活について振り返り、自己の課題を見いだす。</p> <p>○ねらい</p> <p>SSEを通じて学校生活を振り返り、人間(対人)関係において今の自分にあるもの、足りないもの(課題)が何かを考える。(人間【対人】関係に限定)</p> <p>○活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スライドを用いた説明(全クラス Google Meet)を聞き「SSE」について考える。(電子黒板)</li> <li>・ワークシートに取り組み、今の自分にあるもの、足りないもの(課題)を発見する。</li> <li>・自分で「課題解決」に向けた行動のテーマを決める。(決めたテーマを今後の日常生活で実践する)</li> <li>・授業内容を振り返り、Googleフォームにまとめ回答する。(各自の端末)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームルームや学校、社会生活を向上・充実させるためにSSEの理解を通じて、諸問題を話し合っ解決することや、他者を尊重し協働して取り組むことの大切さを理解することができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームルームや学校、社会生活を向上・充実させるためのSSEの理解を通して、自己の課題を多角的に見いだしている。</li> </ul>	

ホームルーム活動2	<p>【テーマ：SSEを通して学校(日常)生活での課題を見いだし学校生活に生かす②】</p> <p>SSEを通して自己の課題解決に向けて実践したことを振り返り次回のグループ内発表へつなげる。</p> <p>○ねらい</p> <p>課題解決に向けて実践したことを評価し、学校(日常)生活に変化はあったか振り返り検証次回の授業につなげる。</p> <p>○活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の課題解決に向け、SSEのワークを通して決めたテーマを日常生活で実践し、振り返り(気付き)をスライドにまとめる。(各自の端末)</li> <li>・次回の発表でグループ内へ共有する準備を行う。</li> <li>・授業内容を振り返り、Googleフォームにまとめ回答する。(各自の端末)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、活動を行う上で必要となることについて理解することができている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・当事者として、多様な他者と積極的に協働しながら日常生活の向上・充実を図ろうとしている。</li> </ul>
ホームルーム活動3	<p>【テーマ：SSEを通して学校(日常)生活での課題を見いだし学校生活に生かす③】</p> <p>より良い学校生活に向け、SSEの学習を通じた実践をまとめ他者と共有し学校生活に生かす。</p> <p>○ねらい</p> <p>より良い学校生活に向けたSSEの実践や実践後の気付きをグループ内で共有し、今後の学校生活をより豊かにするために課題解決を行う。</p> <p>○活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SSEの学習を通して、自己の課題解決に向け設定したテーマ(行動)やこれまでのホームルーム活動での気付きを、グループ内で発表し共有する。(各自の端末)</li> <li>・他者の発表を聞き今後の学校生活に生かしていきたい内容を中心に振り返り、Googleフォームにまとめ回答する。(各自の端末)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合い活動や合意形成を得るための手順や活動の方法を身に付けることができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題を解決するために話し合い、多様な意見を生かして、協働して実践している。</li> </ul>	

## (キ) 評価

評価については、補助簿などを作成し個別に評価していく(図1)。

図1 評価補助簿の例

○特別活動(評価補助簿)		記載(評価)者 _____		
出席番号(1~40)	目指す生徒の姿	ホームルーム活動③		名前
		知・技	思・判・表	
		話し合い活動や合意形成を得るための手順や活動の方法を身に付けることができる。	課題を解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践している。	
1	生徒A			
2	生徒B			
3	生徒C			
4	生徒D			

(特別活動：評価における評価者所感)

**【先生方へ】**

①活動中に机間指導等で評価(○をつける)をお願いします。

②記入後は○○の机上に提出をお願いします。

## (2) 事例2 神奈川県立吉田島高等学校(全日制・農業科) 石塚 洋平 教諭

本校は、約30haの「矢倉沢演習林」と宿泊研修施設「黒ヶ畑寮」を活用した森林環境教育を特色ある特別活動として3年間継続して展開し、持続可能な社会を構築するためのマインドを持ち合わせた産業人の育成を目指している。本指導計画は、導入として1年次に実施される1泊2日の「黒ヶ畑寮宿泊研修」についてのものである。

## ア 目指す生徒の姿

専門知識・技術を確実に習得し、将来の地域農林業や生活産業を担う人材の育成を目指す。そのために、主体的に学び、コミュニケーション能力やリーダーシップを発揮することで課題を発見・解決することができる豊かな人間性と社会性を持ち合わせた生徒を目指す。

専門高校では特色ある専門的行事が多くあり、その一つ一つに生徒が関わり、作り上げていく。そのため、コミュニケーションスキルの充実が学習内容の充実に直結する。特に、本校の「黒ヶ畑寮宿泊研修」は生活訓練としての意味合いも強く、その目的を「民主的かつ実践的的社会人として必要な基本的な生活態度を養い、人間的素養の充実をはかることを目的とする」とある。

本研修の主な目的は、森林環境学習を通して持続可能な社会を構成する産業人の育成にあり、研修を充実したものにするスキルとしてSSEを捉えている。本研究収録では、評価規準をSSEの側面のみ着目し、「集団生活の基本的資質の向上」、「自己開発の徹底」、「実践的社會人としての素養の充実」に重きを置く。

## イ 授業実践例

## ホームルーム活動(1)【事前学習：黒ヶ畑寮宿泊研修をより充実した時間にするために必要なスキル】

学習活動(指導上の留意点を含む)
<p>○ねらい 黒ヶ畑寮宿泊研修における森林環境学習の概略を理解し、SSEを通して集団生活の心構えを学ぶ。</p> <p>○活動(4クラス視聴覚室集合)</p> <p>導入 15分： 森林環境学習の意義として、森林が私たちの環境に果たす役割をスライドから学ぶ。</p> <p>展開①20分： 工程表と写真から宿泊研修の流れと体験内容、施設概要、持ち物と諸注意を把握する。</p> <p>展開②10分： 「SSE」について、「アサーティブ」な対応と「バウンダリー」を意識した距離感を理解し、展開①の内容からどのような場面に必要となるか、端的に研修日誌にまとめる。</p> <p>まとめ5分： ソーシャルスキルの向上が学びの質の向上に繋がることを説明する。</p>

## ホームルーム活動(2)【入寮式(体験活動の導入)：ソーシャルスキルを具体的行動へ移すには】

学習活動(指導上の留意点を含む)
<p>○ねらい 寮内施設やクラス状況を把握し、これからの体験内容を具体的に想像することで自分自身が意識すべきことを明確にし、行動へ移す。また、ソーシャルスキルの不足が学びの充実度を下げることが理解させる。</p> <p>○活動</p> <p>登山 60分： 学校からバスで麓まで移動し、林道を60分間登山する。</p> <p>休憩 20分： 寮内を把握し、食堂で休憩をする。</p> <p>入寮式20分： ①施設概要を説明し、利用方法と注意点の説明を受け、理解する。 ②就寝までの体験内容の説明を受け、把握する。 寮内清掃、昼食(お弁当を食べる)、山頂へ向けた登山とオリエンテーリング(地図を読み、情報を書き込む)、炊事(薪を使い釜戸で炊飯とカレー作り)、夕食(食堂で夕食)、片付けと入浴(片付けと併行して入浴)、卒業生の講話(指導林業家の杉山精一氏講演)、反省(振り返りと明日の予定)、就寝(消灯)</p> <p>③アサーティブな対応とバウンダリーを意識した距離感が必要になる場面を研修日誌に書き込み、班員同士で共有する。</p> <p>④研修後のロールモデルを意識し、各学科の学びや学校生活へどのように生かして行けば良いか、体験を通して考える必要があることの説明を受け、自身で意識付けする。</p>
<p>評価方法</p> <p>[知識・技能] 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、活動を行う上で必要となることについて考えた上で共有し、実際に行動へ移すことができる。</p> <p>[主体的に学習に取り組む態度] 当事者として、多様な他者と積極的に協働しながら日常生活の向上と充実を図り、ソーシャルスキルが必要となる各場面で活用しようとしている。</p>

## ホームルーム活動(3)【退寮式(体験活動のまとめ)：宿泊研修で身に付けたこと、これからの自分】

学習活動(指導上の留意点を含む)
<p>○ねらい 森林環境学習及び宿泊研修中を内省・共有し、今後の学校生活へつなげていく。</p> <p>○活動</p> <p>退寮式60分： ①起床から退寮式までの体験内容を振り返り、教師からのフィードバックを受ける。 起床(朝食準備・洗面・布団片付け)、ラジオ体操(寮の前庭)、朝食(パンの配膳やサラダの調理)、朝食片付け、寮内清掃(各部屋の片づけ等を含む)、間伐材の木工体験、退寮式</p> <p>②研修日誌に、以下のことを整理し、記入する。事前と事後の変容について詳しく記載するように伝える。 ・森林環境学習がどのようにこれらの授業に結びついていくか整理し、記入する。</p>

- ・宿泊研修中の体験をSSEと照らし合わせ、取組を振り返り、記入する。
  - ・③の発表原稿を作成する。
- ③各自1分程度で宿泊研修を受けての事前と事後の変容を発表し、他者の変容を知ること  
で内省をはかる。

#### 評価方法

〔知識・技能〕取組における、実践とその結果について客観的に認識することができている。

〔思考・判断・表現〕自己に向き合い、ロールモデルと研修後の姿を比較し、研修中にどうあるべきであったか、今後どうあるべきか内省することができる。

### (3) 事例3 県立藤沢工科高等学校(全日制) 永井 匠 教諭

#### ア 目指す生徒の姿

- ・ホームルームや学校、社会生活を向上・充実させるために、多種多様な考え方の背景を理解し、異なる立場に立って考えながら合意形成の手順や活動の方法を身に付けている。
- ・ホームルームや学校、社会生活を向上・充実させるために、異なる立場に立って考えながら課題を多角的に見だし、多様な意見を取り入れながら相手を尊重した意見交換をしている。
- ・ホームルーム及び社会の一員として、主体的に学び考え、自分の意見を相手に伝えようとするだけでなく、他者と協働しながら意見をまとめ合意形成を図ろうとする中で、良好な人間関係を作ろうとしている。

#### イ 生徒(学校)の様子

本校は、工科高校であり「ものづくり」に興味関心の高い生徒が多く在籍している。その一方で、生徒間での「すれ違い」や「コミュニケーションによるトラブル」が起きたときに、自分の力で解決できずに悩んでいる様子が確認できる。自力で解決を試みても、相手の気持ちを想像せずに「本音をぶつける」ことにより事態がさらに深刻になる様子も見られる。総じて、「他者の気持ちを想像し、自分の行動を調整する力」を身に付けることが本校生徒の課題だと考えられる。

これらのコミュニケーションにおける諸問題に対して、生徒の実情に合わせたSSEプログラムが有効であると考えられる。

#### ウ 内容のまとめ

「ホームルーム活動(1) ホームルームや学校における生活づくりへの参画」

#### エ 議題

「自他のバウンダリー(境界線)を考え、適切なアサーションを身に付ける」

#### オ ホームルーム活動(1)で育成を目指す資質・能力

- バウンダリー(境界線)やアサーションについて理解し、自他のバウンダリーについて適切な受け入れ方やアサーションの方法を身に付けている。【知識及び技能】
- 異なる立場に立って考えながら課題を多角的に見だし、多様な意見を取り入れながら相手を尊重したコミュニケーションをとっている。【思考力、判断力、表現力等】
- 多様な他者と積極的に協働しながら日常生活の向上・充実を図り、他者への尊重と思いやりを深めて互いのよさを生かす関係を作ろうとしている。【学びに向かう力、人間性等】

## カ 一連の活動と評価

時間	議題及び題材 ねらい・学習活動	目指す生徒の姿		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ホームルーム活動1	<p>【テーマ：バウンダリーを知り、自他のバウンダリーに触れる】</p> <p>○ねらい バウンダリーという考え方について理解し、自分のバウンダリーについて考える。</p> <p>○活動</p> <p>①【個人ワーク】 バウンダリーについて理解する。 (自分の受け入れられることと、受け入れられないことを書き出す)</p> <p>②【グループワーク】 それぞれのバウンダリーの共有 (ICT機器を活用しながら他者の価値観に触れる)</p> <p>③【個人ワーク】 「自分特有のバウンダリー」を考える (他者と関わるための自分のバウンダリーをまとめる) (自分のバウンダリーの注意事項を考え、ワークシートに書く) (自身の取扱説明書を作る)</p> <p>④振り返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バウンダリーの考え方を理解している。</li> <li>・自分のバウンダリーを的確にとらえている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自他のバウンダリーを比較し、自分の特徴を踏まえた「自分の取扱説明書」を作ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のバウンダリーは自分で決めてよいことを理解した上で、線引きをしようとしている。</li> <li>・自他のバウンダリーを比較し、自分の特徴を導きだそうとしている。</li> </ul>
ホームルーム活動2	<p>【テーマ：バウンダリーを守るためのコミュニケーションスキル「アサーション」を身に付ける】</p> <p>○ねらい アサーティブな考え方と、そうでない考え方の違いを理解し、自分のバウンダリーを守り、他者のバウンダリーを尊重するためのよりよいコミュニケーション能力を身に付ける。</p> <p>○活動</p> <p>①【個人ワーク】 アサーションについて理解する (前回の「自分のバウンダリー」と「自身の取扱説明書」を確認させ、相手を尊重しながら自分をうまく伝える方法がアサーションと言うことを理解させる)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アサーティブな考え方と、そうでない考え方の違いを理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バウンダリーが衝突した際、他者理解と自己理解を通して、お互いが納得できる方法を考えられている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アサーティブな考え方に基づいて、他者の立場を尊重して、「どうすべきだった」を考えようとしている。</li> </ul>

<p>②【グループワーク】 自分と相手のバウンダリーをぶつけて、すり合わせる。 (コミュニケーション事例を挙げ、その際に自分だったらどのような問題が起きるかロールプレイさせそれぞれの気持ちをまとめる) ↓(2シチュエーション用意) (お互いが嫌な思いをしないためには、お互いがどうすべきかを考えて話し合う)</p> <p>③【個人ワーク】 アサーションのコツを考える (ロールプレイをして、アサーションのために必要だったことをワークシートに書き出す)</p> <p>④【グループワーク】 アサーションのコツ共有 (ICT機器を活用しながら他者の価値観に触れる)</p> <p>⑤【個人ワーク】 まとめ</p>		
--	--	--

#### (4) 事例4 県立湘南高等学校(定時制) 柳原 慎平 総括教諭

テーマ：湘南高校定時制SSEプログラム：安心して他者と関われる力を育てる  
～バウンダリーとコミュニケーション～(全3回)

##### 【ホームルーム活動(1)で育成を目指す資質・能力】

・自他のバウンダリーについて考え、自分の思いや考えを相手に伝える力(アサーション)を養う。

##### 【知識及び技能】

・自他の違いを理解し、他者と適切な距離を保ちながら安心して関われる方法を考え、表現する力を養う。【思考力、判断力、表現力等】

・相手の立場や気持ちに配慮し、相互に尊重し合える関係を築こうとする態度を養う【学びに向かう力、人間性等】

※電子黒板、一人一台端末、補助簿等を使用しながら、授業内の観察と成果物で行う。

##### 【一連の活動】

回	活動構成	学習活動(※は評価の観点)
第1回 (45分)	【本時のテーマ】 自分の安心ゾーンを知ろう(自分のバウンダリーを意識しよう)	
	【ねらい】 ・バウンダリーの考え方を理解する。 ・自分の傾向を知り、安心できる距離感を意識する。 ・自分のバウンダリーマップを作る。	
	1 導入	最近の人との関わりで「ホッとした」「疲れた」ことを思い出す。(共有自由)
	2 学び	バウンダリーの考え方をやさしく理解する。 ※知・技 (心の線を守ることの大切さ)

	3 ワーク①	チェックシートに○をつける。点数化・発表なし。
	4 ワーク②	自分のバウンダリーマップを描く。(絵・線・色で表現) ※思・判・表
	5 振り返り	気付いたこと・感じたことを記入する。話すのは自由。
	6 次回までに	安心できる距離を一つ意識して過ごす。(ワーク記入) ※態
2 (45分)	【本時のテーマ】 気持ちを伝えるってどういうこと?(アサーションを身に付けよう)	
	【ねらい】 ・アサーション(自分も相手も大切に伝える伝え方)を知る。 ・自分の感情を「私は～と感じた」と伝える練習をする。	
	1 導入	前回の振り返り、安心できる距離を一つ意識してみようと感じたか記入する。
	2 学び	三つの伝え方(攻撃的・受け身・アサーティブ)を紹介する。 ※知・技
	3 実践①	Iメッセージで伝える練習する。(例:「私は～と感じた」) ※知・技
	4 実践②	簡単なロールプレイを行う。 ※思・判・表 (断る・お願いする・感謝を伝える)
	5 振り返り	伝えてみてどう感じたかを記入する。
	6 次回までに	「ありがとう」「やめて」など一つ実践してみる。(ワーク記入) ※態
3 (45分)	【本時のテーマ】 お互いの大切にすることを学ぶ	
	【ねらい】 ・相手のバウンダリーを尊重することを学ぶ。 ・相手の表情やサインを感じ取り、距離を調整する力をつける。	
	1 導入	前回の「伝えてみた体験」でどう感じたか記入する。
	2 学び	相手にもバウンダリーがあることを理解する。(サインの見方) ※知・技
	3 実践①	ケースワークで対応を考える。(無理な頼まれごとなど) ※思・判・表
	4 実践②	相手のバウンダリーを受け入れる練習する。(沈黙・表情を読む) ※知・技
	5 まとめ	「これから大切にしたい関わり方」を宣言カードに記入する。 ※態
	6 クロージング	3回の学びを振り返る。 ※態

## 【プログラムを検討する上で考慮したこと】

- ・使用する用語の理解に個人差があるため、ゆとりのある計画を立て、わかりやすい言葉を用いる。
- ・人間関係のトラブルが起こりそうな時期の前までに行う。(本校は6月の文化祭前までに)
- ・他者との関りに不安を感じる生徒もいるので、個人的な活動からペア・グループと段階的な構成とする。
- ・気付きを大切に活動を取り入れる。
- ・日常生活で起こる体験とリンクさせて考えることができる内容にする。  
“次回までに”という課題を入れることで、自分の生活で活用する。

## 【☆安心して他者と関われる力を育てるプログラム(全3回)】

- ① 安心を基盤にした段階的な構成→安心して関わる力
- ② 自己理解から始まるリレーションづくり→自分を大切にできる力、他者を大切にできる力
- ③ 体験的・循環的な学び→実践(日常生活)に活かす力

## 【生徒用ワークシート項目例】

1. バウンダリーチェック(5項目に○)
2. わたしのバウンダリーマップ(中心:自分/周囲:人・場所)
3. ふりかえり(感じたこと・安心できる距離)
4. Iメッセージ練習欄
5. 宣言カード:「これから大切にしたい関わり方」

### 3 令和5年度から令和7年度までの神奈川県高等学校教育課程研究推進委員会 特別活動部門の取組

2023年に神奈川県教育委員会が発出している『「令和5年度 公立高等学校等生徒の異動の状況」集計結果（概要と統計表）』より、神奈川県内の公立高校における転退学者は増加傾向にあることが明らかになった。その中でも、令和5年度当初の推進委員による協議で焦点が当てられたのは、生徒が抱える「人間関係の悩み」である。本研究は、特別活動におけるLHR等の時間を活用してその課題解決を図ることを目的とし、SSEに関する「組織的な授業改善」への段階的な取組として開始された。

#### (1) 令和5年度：新羽高校と柏陽高校での実践

学力向上進学重点校に位置付けられる柏陽高校と、生徒指導加配が割り当てられている新羽高校の2校で実践を行った。同じ全日制高校であっても、生徒が抱える人間関係の悩みや課題の様態は異なる。そのため、柏陽高校ではSSEを通した「自己実現探究」を、新羽高校ではSSEを通した「セルフディフェンス学習」を展開した（詳細は令和5年度研究集録参照）。各校で初めての取組であったことから、推進委員が主体となり、全体講義やオンラインによる一斉授業を軸とした形式で実施した。事後アンケートの結果からはプログラムの一定の効果が認められたものの、担当者の負担が大きく、継続的な運用の難しさが課題として浮き彫りとなった。（※令和7年度より、新羽高校ではSSEを「いのちの授業」として校内分掌業務に位置付け、持続可能な学年行事として定着を図っている。）

#### (2) 令和6年度

新羽高校と柏陽高校での実践1年目の反省を踏まえ、運用方法に工夫を加えた実践を展開した。新羽高校では、推進委員による講義形式ではなく、所属学年以外の学年団が授業SSEを担当する形態をとった。マニュアル作成や学年研修を通じて「担当者以外の教員による再現性」に注力した結果、1年目同様の効果が得られた。教員からは「習得させたい技術や目指す姿が明確である」「教具（スライド・ワークシート）の柔軟性が高く、担任の個性やクラスの特色を生かした」との声が挙がった。柏陽高校では、前年度の実施学年で継続してプログラムを実施した。指導と評価の一体化を図るため「評価補助簿」の作成に尽力し、各クラスの特色を損なわない形での統一的な指導を可能にした。学年団からは「評価補助簿を通じて目指す姿が理解できた」との評価があり、特別活動における評価補助簿の有用性が確認された。

#### (3) 令和7年度：吉田島高校、柏陽高校、湘南高校（定時制）、藤沢工科高校での実践計画

専門学科（農業・家庭）を併置する吉田島高校、総合技術科の藤沢工科高校、学力向上進学重点校の柏陽高校、定時制課程の湘南高校の4校において、SSEの試行に向けた指導計画の検討を行った。校種や課程を問わず活用できるよう、推進委員会では各校の特色や課題に応じたプログラムを検討した。なお、対象は いずれも1学年とし、入学直後や長期休業前後での実施を想定している。

#### (4) まとめ

これまでの取組から、SSEは、2～3年の計画で段階的に定着させることで、単発のイベントで終わらない、継続的かつ発展的なプログラムになることを部門として実感している。有用性は理解しつつも学校現場では依然として年間計画への組み込みや教員の負担といった障壁は存在するが、各学校の教育目標と実態に応じた指導計画を検討した今年度の研究成果は、各学校が抱える課題に対する有効な実行可能なアプローチとなると期待している。

新羽高等学校 教諭 袖本 風馬

### 参考資料

神奈川県教育委員会 2023「令和5年度 公立高等学校等生徒の異動の状況」集計結果（概要と統計表）  
[https://www.pref.kanagawa.jp/docs/t8d/edu\\_stat/high\\_change\\_course/r05\\_result.html](https://www.pref.kanagawa.jp/docs/t8d/edu_stat/high_change_course/r05_result.html) (2026年2月17日取得)